

信 毎 歌 壇

小島 なお 選

自分だけ違いが分かる寝る用のTシャツ脱いでTシャツを着る (松本市) 点と弧
 ごはんつぶスバツと切れた断面の潔すぎる海苔巻きたちの (上田市) 矢島 美穂
 病床で「シユワシユワ飲みたい」母の言うフアンタグレイプ飲み残し逝く (千曲市) 恵 子
 もみじの枝切りたいと女孫そうだそうだそのやる気を折ってはならぬ (長野市) 宮崎 久子
 ○・○ハグラムの火薬にて線香花火妙なる世界 (飯綱町) 小林 紀子
 また来てと人形背負い見送る施設の慰問みな亡母に似て (岡谷市) 吉池富貴男
 九十二と八十七歳お互いに髪の手切り合うアングラ鉄 (佐久市) 臼田宇多子
 隣りまた向かいの店も閉じられて城下の町屋にゆふひかり透く (長野市) 近藤 光子
 蟻の道ちよいと触れ合いすれ違うちさき蟻らのことば知れたし (松本市) 溝上ひろみ
 夏休み蚕の桑やり当番で畳の上に夜雑魚寝せり (御代田町) 柳沢 光雄

老いの身にもう無理ですと返上の休耕田に小鮎が泳ぐ (小諸市) 星野 直人
 日の暮が菊の開花をうながして施設がへりをむかへる火影 (長野市) 丸山 祐司

第一首、ほとんど同じTシャツを脱いで、着る。自分にとっての大切を知ることがすなわち生活なのだ。第二首、割り切れない物事の多い世界。のり巻きの一枚の切り口は美しくもやや不気味。第三首、母の最期の喉をくぐった甘い炭酸。生と死の境が飲み残した缶のなかにせつなく泡立つ。第四首、何事も年齢を理由に諦めさせてはいけぬ。何歳になっても、やる気が人間を成長させるのだから。

選 評

米川 千嘉子 選

サイレンを聞けばあの夜を思ひ出す「△△さん灯り漏れてる」の怒声 (松本市) 平林 大喬
 同い年のプーチンよりも長生きし悪業の末見届けなければ (長野市) 宮崎 呂
 孫十五歳いつのまにかの声変わりすね毛も伸びて近寄りがたし (飯綱町) 小林 紀子
 泣き寝入りせし児の枕取り替へて母亡き歳のおのれに浸る (木曽町) 新村 亮三
 夕刻は涙にくれし一か月養子で我を手放しし母「ありがとう」は大切な言葉 我が夫よ「サンキユー」でなく日本語で言つて (長野市) 松本 博人
 四歳が母着た浴衣で大きいそぎ祭りだ花火だ駆けだしてゆく (小川村) 伊藤 宗善
 人類の破壊をちよつと遅らせるだけの呪文よ「自然を守れ」 (塩尻市) 藤森 円
 ゲリラ雨にプランターから水溢れ蟻、カメムシが必死で泳ぐ (伊那市) 赤羽 正彦
 暑すぎて犬、猫、ヒトもそつしてひんやり床にうつ伏せで寝る (千曲市) 石黒 信幸

エアコンに向けるリモコンテレビ用またしなるか八十路の男 (長野市) 坂口 智弘
 骨折の治癒は長しされど娘が髪を洗つてくれる日多く (長野市) 原山 伸子

第一首、戦時の灯火管制。ドラマなどにもよく登場する場面だが、実際にはもっと厳しかったのだろう。「怒声」が近所に響き渡る。第二首、プーチン72歳。世界のあちこちで「悪業」がまかり通っているその行く末は。第三首、「近寄りがたし」が効いて、孫ながらその変化にたじろぐ様子が目に浮かぶ。第四首、枕を替えるほどに泣いていた幼児は自分でもあった。産めた結句がかえって切ない。

選 評

小池 光 選

宇宙人いるとおもうかと九十三の母にきこうとしてる猛暑日 (長野市) 原田りえ子
 幾人か友が逝きたる淋しきお盆めいんなみんな優しかったよ (麻績村) 塚原ふじ子
 恙なき今日一日を振り返る優しかったか親切たりしか (小布施町) 市村 憲彦
 かぐや姫の罪は何かと考えて少女たち皆夢を見て (安曇野市) 細川 恒
 それぞれの個性あらはすおしゃれして三人娘帰る (飯山市) 市村紀久子
 孟蘭盆 新盆に間に合うように白百合が三本咲きて母の墓前に (長野市) 宮崎 呂
 糸切唄立ててスベアリア唄る時肉食獣の顔と妻言ふ (箕輪町) 向山 政俊
 神社にも土俵のありし遠き日よ素人力士徳ぶ秋の夜 (飯綱町) 坂井 寿男
 薄いビールを氷に注ぎ屋敷から飲んだくれるのが正しい夏だ (松本市) 美甘 歆
 「いらないよ」トイレと風呂場の手すり見てそう思ったけど今大助かり (長野市) 島田 怜子

熱のち足のむくみのきはまれり踏み出すたびにじんじんとする (松本市) 堀内 悠子
 散歩道空き家の増えて夕暮るる立葉ばかり紅く咲き (長野市) 渡辺 和代

第一首、とにかく発想がおもしろい。93歳の老母に宇宙人があるかどうか聞く。お母さん、どう答えるんだろう。きっといると答える。第二首、親しい友が次々亡くなる。思えばみんな優しかった。この正直で飾り気のない下句がいい。第三首、1日を振り返ってこう自問する。優しく、親切だったかどうか。簡単なことのようにだけど、実はなかなかむずかしい。特に親切であることはむずかしい。

選 評

